



昭和33年(1958)以前 新潟駅前土地画整理工事の状況

昭和33年(1958)、新潟駅が現在地に移転し、民間の店舗も入居する「民衆駅」として開業しました。移転前には42.4haの田を埋め立て、新駅から流作場までの幅50mの道路(東大通)とこれに直交する道路(明石通)を新設し、街区が設計されました。上の写真は工事中の様子。まだ、駅前には建物が何も建っていません。



「ハス池の多いド口田を1年かけて埋め立てた」土地画整理事業の竣工を記念して、新潟駅万代口正面に設置されていた裸婦像は、2014年3月からは隣の石宮公園に移設されています。



昭和33年(1958)開業時の新潟駅前。向かって右にバスターミナルがあります(写真上)



平成25年(2013)の新潟駅前・東大通(写真左)



2013年の新潟駅万代口正面パノラマ写真 旧新潟駅前からの路地めぐり～春日町・南万代町界限

全国とつなぐ～現在の新潟駅



上越新幹線開通を記念してたてられた像。新幹線ホーム下で探してね!



新潟駅隣の「石宮公園」は、ツツガ虫除けのために弁財天を祀った「石宮神社」があった場所。神社は新潟駅の移転時に「三社神社」境内に移り、名前だけが残っています。現在は地下駐輪場を併設。多くの人が利用しています。



弁財天を祀ったことにちなんで生まれた商店街。駅前らしいにぎやかな通りには、弁天様を中心に我々七福神が勢揃い～。



弁天通商店街から一本奥、古い町並に新しい店が融合しているちょっとディープな「楽天地」。辛党&居酒屋好きのおとなには、夜もおすすです。



新潟駅が現在地に移転した頃の地図 昭和33年(1958)頃の「最新新潟市街図」

普通の住宅地と思いきや... 一般の住宅に火土器!実はこちらのご主人が手作りをしたものだそうです。完成度の高さに思わずうなりますよ。



路地の向こうに鉄塔、銭湯、猫。ちょっとカオスなエリアでは、ゆっくり散歩を楽しみましょう!



くねくねカーブしている細道や、昔からあるらしき商店や飲食店。思い思いの植栽や猫の姿もちらりほり見える。路地めぐりお楽しみ満載のエリア。堪能して欲しいニャー



弁天公園には「公衆電話発祥之地」の石碑が設置されています。探してね。



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



明治37年(1904)に開業した新潟駅は、昭和33年(1958)に移転するまでの間、今の弁天公園付近にありました。駅舎の面積は26坪ほどでしたが、開業にあわせて萬代橋東詰めとの間に県道がで、明治40年(1907)には県内初の公衆電話も設置され、周辺には商店が増えていきました。弁天公園周辺の南万代・春日町界隈は、かつての駅前地域にあたります。迷い込んでみたくなる魅力的な路地や商店がたくさんあるので、ゆっくり歩いてみてください。



「とまれ」がこたましてる道路ニャ!どこにあるのか、歩いて見つけるのニャー!



郊外へ向かうバスがひっきりなしに発着している新潟交通バスセンター。この名物といえ、立ち食いのカレーなんです。レトルトまで発売されている人気ぶりは、新潟市長からも表彰されています。



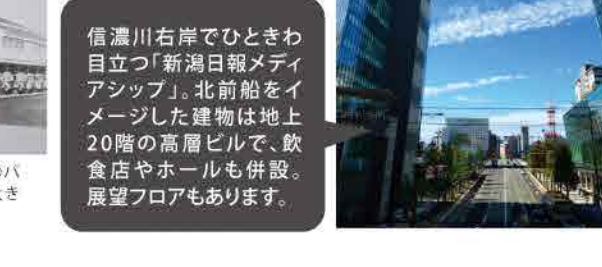
バスセンター2Fにワシはおるぞ。見つけられるかな?



信濃川両岸の埋め立て工事は昭和4年(1929)に着工され、第一期として萬代橋から昭和橋の間約60haが埋め立てられました。左岸側は川端町と名付けられ一般に売却されましたが、右岸側には昭和10年(1935)に新潟合同自動車(現 新潟交通)本社が移転、11年(1936)に新潟鉄道局が開局し、鉄道と自動車の地となりました。



信濃川右岸でひとときわ自立つ「新潟日報メディアシップ」。北前船をイメージした建物は地上20階の高層ビルで、飲食店やホールも併設。展望フロアもあります。



昭和26年(1951)に建てられた新潟交通のバス・ステーションは、日本初のもので大きな話題に(現在のテレコムビルの場所)

～春日町・南万代町界限

全国とつなぐ～鉄道と自動車の町・万代シティ



信濃川右岸でひとときわ自立つ「新潟日報メディアシップ」。北前船をイメージした建物は地上20階の高層ビルで、飲食店やホールも併設。展望フロアもあります。

1970年代になって、新潟交通のバスターミナルを中心とした再開発が行われ、万代・八千代エリア帯は「万代シティ」という商業地になりました。現在も新たな商業ビルが建設されるなど、変化を続けています。

